

# 新しい教育助成モデル導入のお知らせ

ファイザー株式会社（以下ファイザー）は本年4月から、新しい教育助成モデル“Independent Grants for Learning & Change”モデル（以下 IGL&C モデル）を導入することになりました。

## - 導入理由 -

ファイザーは、医療現場で必要とされている教育・トレーニングへのサポートを、今まで以上に積極的に推進していくことが重要であると考えています。現在、ファイザーの寄附・助成制度には、学会・研究会等の学術集会やセミナー・講演会・市民公開講座などのイベントをサポートするもの（医学教育イベント助成）、大学等の教室の研究活動全般に対してサポートをするもの（アカデミックコントリビューション）などがありますが、今回の新しいモデル、IGL&C モデルの導入は、今までよりも患者さんの QOL や現在の医療提供システムを大きく改善することに寄与し、効率的、効果的な役割を果たすものと考えています。米国では既に2012年より導入され（米国 Independent Grants for Learning & Change へのリンクは [こちら](#)）、患者さんや医療従事者、医療システムに対し、数多くの成果が得られており、日本への導入も、米国と同様に大きな成果が得られると確信しています。

IGL&C モデルは Track 1 と Track 2 の2種類に分けられます。以下 IGL&C モデルの概要をご参照ください。

## - IGL&C モデルの概要 -

[Track 1]

### **Healthcare Quality Improvement & Education**

～医療現場におけるプラクティス・ギャップ、クオリティ・ギャップを埋めるためのプロジェクトをサポート～

: Track 1 “Healthcare Quality Improvement & Education”（以下 Track 1）は、医療現場において生じている“プラクティス・ギャップ（医学的・科学的知識はあるけれど、実際の診療や看護などの実践・行動に移せていない、またはその実践・行動が普及していない）や、“クオリティ・ギャップ”（医学的・科学的知識はあり、実際の診療や看護など、実践・行動はしているけれど、良い結果・成果が得られない）を埋めるためのプロジェクト、すなわち、医療従事者の行動を変革するプロジェクトをサポートするものです。

この Track1 ではまず、エビデンスとデータに基づく公募（Request for Proposal）を当社米国本社のウェブサイトに掲載します。外部組織（厚生労働省、学会等）、文献、その他第三者団体によるニーズ評価、ギャップ分析、クオリティに関する指標などによって“プラクティス・ギャップ”や“クオリティ・ギャップ”が特定された臨床領域が対象となります。公募する領域は、当社のサポートによって臨床的・地域的・方法的に患者さんへの医療ケアやアウトカムに最善の効果が期待できる領域が毎年設定されます。尚、従来からある当社の助成モデルと同様、応募されるプロジェクトは申請団体（施設）自らが立案・実行するものであり、ファイザーがそのプロジェクトの立案（内容に関するアドバイスを含む）や実行に際して一切関与することはありません。また Track 1 では外部有識者によるレビュー委員会にて審査を行い、助成を決定します。



## [Track 2]

### **Knowledge Gap**

～ナレッジ・ギャップを埋めるための医学的・科学的教育プログラムをサポート～

- I. 医学教育プロジェクト助成（公募による受付）
- II. 医学教育イベント助成（各イベント開催毎の受付）

：Track 2 “Knowledge Gap”（以下 Track 2）は、さらに2つの助成プログラムに分かれます。

- I. 『医学教育プロジェクト助成』は Track 1 と同様に、エビデンスとデータに基づく公募を当社のウェブサイト（教育助成のご案内）に掲載します。Track 1 がプラクティス・ギャップやクオリティ・ギャップが特定された臨床領域を対象とするのに対し、この Track 2 の医学教育プロジェクト助成は、“ナレッジ・ギャップ”が特定された臨床領域を対象とします。
- II. 『医学教育イベント助成』では引き続き、学会・研究会等の学術集会やセミナー・講演会・市民公開講座などのナレッジ・ギャップを埋めるためのイベント等にサポートをしていきます。イベントの規模・予算/決算の適格性・期待される教育効果など、ファイザーの教育助成のレビュー基準に基づき、助成額を決定します。

### **現行の助成モデルと新しいモデルとの違い**

従来のモデルとの違いは、受動型のプロセスから、公募型（Request for Proposal）のプロセスに移行することです。これによって医療現場で改善を最も必要とする対象領域にサポートを集中させることができると考えています。また、より高い透明性を担保するために、助成受領団体とファイザーとの間で、教育助成契約を交わします。

ファイザーでは、今後、医療現場で必要とされる教育や医療の質の向上に関するプロジェクトへのサポートを通じて、ヘルスケア企業としての責任を果たしていきます。

詳しい情報は、弊社サイト“教育助成のご案内”（下記リンク）にてご確認ください。

<http://pfizer-ac-web.pfizer.co.jp/eg/>

2018年4月2日

